



創傷(きず)の じょうずな治し方

いままでのきずの治療は「消毒をしてガーゼを当てる。水に濡らしてはいけない」といわれていました。現在では「あまり消毒剤に頼らずに、水できれいに洗う」という考え方に変わりつつあります。かさぶたを作らずに湿潤状態を保つことが上手に治すコツです。きずにはすりきず、きりきず、やけどや床ずれなどがあります。それぞれのきずの状態に応じた治療が必要です。皮膚科専門医にご相談ください。

すりきず



きずが土がついています



汚れは水で洗い流します



創傷被覆剤を用いて、かさぶたを作らず湿潤状態を保ちます



きずあとを残さず治りました

腕の剥離創



剥がれたきず。高齢者によくみられます



剥がれた皮膚をもとの場所にすぐに戻します



2週間後にはきれいに治ります

深いきず



きれいに洗います



縫合します

治りにくく重症のおも

原因に応じた治療が必要です



静脈瘤による下腿潰瘍



床ずれ



動脈硬化症に伴う潰瘍



動脈硬化像を認めます



糖尿病性壊疽

きずの手当て5か条

- ① ケガをしたらまず水で洗いましょう
- ② やけどは水で冷やしましょう
- ③ 消毒剤で悪化することがあります▶
- ④ 民間療法は避けましょう
- ⑤ 早めの受診がきれいに治すコツです



感染に気をつけましょう



犬・猫咬傷は深く化膿しやすい



きたないきずでは破傷風になることがあります



創傷被覆剤はとびひには禁物です

いい ひふ
11月12日は皮膚の日です